

第1回・オニタビラコ

キク科・タビラコ属 【鬼田平子／youngia japonica】

4月14日、西荻南にて撮影

◎適食

その生息形態や姿から、正に雑草の中の雑草、「雑草の王様」とも呼びたいのが、このオニタビラコ。その上、我々の雑草探索の第一歩となった植物なので、何としても初めに紹介したいと考えていました。

春まだ浅いのに、決して空き地の真ん中を占めることもなく、さして群れもせず、大抵はアスファルトに覆われた道端から塀が立ち上がるその隅に、かすかに残された土に根を張り、地面にへばりつくようにロゼット状の葉を拡げ、20~100cmにもなる針金のように細長い花茎をのばした先に花を咲かせる。早春の朝、気温が13℃程に上がってくると、花茎の頂部に5~19個（このいい加減さが何とも言えない）の舌状花を集めた頭花が開く。真っ黄色というのではなく、透けるような黄色の可憐で気品のある頭花は径7~8ミリ程の一日花で、陽の傾く午後3時頃には花を閉じてしまう。たった一日（正確にはわずか数時間）しか咲かない、そのはかなさにも惹かれます。タビラコとは田平子と書いて、根生葉がロゼット状（平べったく放射状）に地面に張り付く様子から名付けられたようです。オニ（鬼）はタビラコより大型であることから。オニタビラコもその仲間であるキク科の花は、一つの花に見えるものが、実はたくさんの花が集まって出来たもので、植物中最も進化した繁殖に適した形態らしい。

【食べてみる】

ロゼット状の若葉はクレソンに大変よく似て柔らかく、噛んだ瞬間とても苦く感じるものの、アクの強さもない。「さて」のクレソンとベーコンのサラダにならって、「さて」のドレッシングを使ってオニタビラコとベーコンのサラダとしたら、ほのかな苦さと共に大変おいしい。どうしてみんな食べないのだろうと思うほど。春の七草の仏の座とは、実はオニタビラコのことであるらしい。



オニタビラコ（頭花・拡大）



オニタビラコ（全体）